

日本アジア投資株式会社 2017年3月期 第2四半期決算説明会
質疑応答 要旨

2016年11月8日（火）開催

Q1：ファンドの設立が期初計画から遅延している理由、ファンド運営報酬が下振れ見込みとなる理由、設立見込時期や設立規模の見直しの有無

A1：国内ファンドの設立遅延理由は、主要な候補先が他社のファンドに出資することになり、当社のファンドへの出資を獲得出来なかったためである。現在は、代替となる企画を作り他の候補先に持ち込むための動きを始めている。ファンドサイズは期初計画通り50億円は欲しいところであるが、サイズを縮小しても設立を急ぐべきだとの意見もあり、社内で検討中である。

First Eastern とのファンドは、まず中国でのファンド設立を優先させることとなった。中国のファンドでは、ファンドの投資決定権限に関して、中国側のLP候補先との条件交渉が長引いている。

ファンド運営報酬が下振れする理由は、期初には、上期中に設立し下期から報酬を得ると見込んでいたファンドがあった。しかし、設立時期が下期にずれ込み、下期の見込んでいた新規ファンドからの運営報酬が無くなるため下振れとなる。

設立時期は、ずれ込んでいるものの、今期中を目指して努力している。

Q2：他の報酬の下振れを穴埋めするために、売却するメガソーラープロジェクトの数を増加したのか？

A2：もともと予定していた案件の売却であり、穴埋めのために増加した訳ではない。ただし、期初にはプロジェクトの持分の一部のみを売却予定であったものが、買手側のニーズや売却手続き上の制約などの影響で全部売却となったものもあり、結果として売却益が期初見込みに比べ上振れすることとなった。

Q3：年間の投資実行見込額

A3：プライベートエクイティの投資実行額は、下期も上期と同程度を見込む。半期で10億円程度には増加させたいが、無理して規模を追及することはない。

Q4：ファンドが設立できない理由の詳細。個別の事情があるのか？外部環境の影響か？

A4：当社はリーマンショック以降投資損失を出してきており、その結果としてファンドのパフォーマンスも良いとは言えない状況となり、それが影響しているものと認識している。その後、投資方針や人員を入れ替えるなどその状況を挽回する努力を続けてきており、最近その成果が出てきている。その一例として、2016年2月にJAIC企業育成ファンドの設立を実現した。これを起爆剤に、更なるファンド設立を目指す。

Q5：来期以降の業績をどう見ているか？特段の懸念点はあるか？

A5：長期的な観点では、ファンド設立とメガソーラーの積み増しによる安定収益の拡大を期待している。また、来期も、大きなマーケット環境の変化が無ければ、投資の回収は悪くないと考えている。

懸念材料は、ファンドの設立の成否である。万一今期中にファンド設立が実現できないとしても、来期以降も引き続き設立に向けて努力していく。

Q6：メガソーラーへの投資は、電力の固定買取価格がどこまで下がった場合でも続けるのか？

A6：現在取り組んでいる案件の買取価格は、最低でも32円である。現時点においては、それ以下の買取価格の案件には取り組む予定はない。

Q7：上場インフラファンドは、メガソーラーの売却先となり得るか？

A7：売却先になると期待している。ファンドが上場後に投資資産を増やす場合、また、ファンドが上場前に組入れ案件を確保する場合に、当社の売却機会があると考えている。

以上